

# 第6回宇治市教育振興基本計画策定委員会会議録

日 時 令和4年2月22日（火） 午後3時00分 開議

場 所 宇治市役所6階 602会議室

## 会 議 日 程

### 1. 開会

### 2. 協議

○第2次宇治市教育振興基本計画（初案）への意見募集結果について

○第2次宇治市教育振興基本計画（最終案）について

### 3. その他

### 4. 閉会

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

（策定委員）

委員長	京都教育大学教授	榊原 禎 宏	副委員長	北宇治中学校長	吉田 英 司
委 員	京都文教短期大学准教授	桑原 千 幸	委 員	宇治市連合育友会長	丹羽 寛 美
委 員	宇治市連合育友会副会長	竹内 理	委 員	菟道小学校長	島田 尚 明

（事務局）

部 長	伊賀 和 彦	副 部 長	上道 貴 志
教育支援センター長	林 口 泰 之	教育総務課長	栗田 益 典
学校教育課長	吉田 秀 平	教育支援課長	金 久 洋
学校教育課副課長	藤田 祥 尚	教育総務課企画庶務係長	北池 颯 子
教育総務課企画庶務係	前田 圭 祐		

開 会 （午後3時00分）

### 1. 開会

委員長が第6回「宇治市教育振興基本計画策定委員会」の開会を宣言する。

### 2. 協議

第2次宇治市教育振興基本計画（初案）への意見募集結果について

[事務局] 「第2次宇治市教育振興基本計画(初案)への意見募集結果及び最終案について、初案についての意見募集は、令和3年11月25日から12月24日まで実施し、9人から14件の意見があった。内訳は、計画の内容9件、取組等の提案2件、要望等3件。うち計画を修正した箇所は2件である。

修正内容については、ウェルビーイングについて、市民に分かりやすい言葉に変えてほしいという意見があり、P14に「世界的視野を持ち、一人ひとりの多様な幸せであるとともに、社会全体の幸せでもあるウェルビーイング(well-being)の観点に立って」に修正した。また、「非認知能力」について、例を挙げて書いてあればわかりやすい。という意見があり、P19の下に注釈、P58に用語解説を追加した。

[委員] 意見等への市教委の考え方として、いただいた意見は今後の教育活動の参考とさせていただきます。とされている箇所があるが、どのように参考にするのか、具体的に書く必要があるのではないかと。

[事務局] いただいた意見については、要望も含まれている部分もあることから、計画に直接反映させることはなく、このような記載となっている。

[委員] これらの意見とは反対の意見もあるかと思うので、参考にするという表現になっていると思う。私見として、市民協働という観点から、市民ぐるみで議論を進めてまいりますと言うような表現でも良いのではないかと。

[委員] P19 非認知能力についての注釈について、「測定できない個人の特性による能力」という言葉はわかりにくいのではないかと。「測定できない個人の能力」や「個人の特性に基づく、測定できない能力」はわかるが、これでは意味が分かりにくい。意味合いとしては、「測定できない個人の能力であり、個人の能力というのは個人の特性に起因する」となると思うので、表現に関しては事務局に修正をお願いします。

[委員] P14のウェルビーイングの注釈について、生徒という表現が出てくるが、対象は生徒だけで大丈夫か。計画の中身としては、生徒だけではなく広い範囲が対象になるのではないかと。

[事務局] OECDの国際報告書では student という言葉が使われており、生徒と訳されている。ウェルビーイングという言葉の説明なのでそのまま引用している。

[委員] 引用なので、そのままが良いかと思うが、必要であれば、本計画では生徒とは児

童生徒を指すといったような言葉を追加しても良いかと思う。

## 第2次宇治市教育振興基本計画（最終案）について

[事務局] 初案から字句修正を行った箇所について、P13の「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」を「ふるさと宇治」に、「基本方針」を「計画推進の視点」に修正した。また、P18とP37の「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」を「コミュニティ・スクールの推進」に修正した。P25「努めます」を「努めるとともに、引き続き幼稚園のあり方について検討します。」に修正した。

[委員] 運営協議会を立ち上げて、地域学校協働活動を進めるということをコミュニティ・スクールと定義付けられていると思うので、コミュニティ・スクールについての表記は非常にわかりやすくなったと感じた。

[事務局] 目標値・指標値について、12年間の計画であるが、長期にわたるため、中間年の令和9年度までの目標を記載している。現状値が国や府等の平均を下回っている部分については、平均値を目標としている。

[委員] P22について、D・C層という表記は定義付けがあった方が良いのではないかと感じる。

[事務局] D・C層については、一般にはわかりにくい表現なので、説明の追加を検討する。

[委員] ICTの定着割合について、純粋なICTの活用度に関する指標の方が良いのではないか。また、現状値が既に高いので、目標とする必要が無いのではないか。

[事務局] 授業でICT機器が使われているかという項目もあるが、子どもたちがICT機器を活用することが勉強の役に立つという実感を持っているかという項目を採用している。目標値としては、全員が役に立つと思ってもらいたいので、100%を目指す。

[委員] タブレット端末を家庭に持って帰れないという状況があるが、家庭で使用できないと、活用の推進が図れないと感じている。P19の最後の項目に「家庭との連携を図りつつ」各学校においてICTを活用する。というように修正する必要があるのではないか。

[事務局] ICTの活用については、家庭での活用も重要であると認識しており、P15に各施策において、ICTを活用していくということで定義している。

また、今後、ICT活用に関する先行事例を全校に周知して、活用を進めていきたいと考えている。

[委員] P19については、事務局で書き加えができないかどうか。検討をお願いする。

[委員] コロナ禍において、不登校が増加していると感じているが、現状値と目標値の設定についてはどう考えているか。学校に来ていないが、校長が登校とみなすなど、不登校の定義も変わっているのではないか。

[事務局] 現状値に関して、令和元年度と比べて令和2年度の方が不登校の割合が少なく、コロナの影響が少ない令和元年度を採用している。

不登校の定義に関しては、小学校、中学校ともに年間30日以上欠席、経済的理由、病気による理由を除くとしており、今のところ変更はない。

[委員] P27について、自己存在感より、自己肯定感の方が一般的ではないか。

[事務局] 地域の中や人との関わりの中で、自己の存在を認めるということに着目するために自己存在感という言葉を使用している。

[委員] 了解した。P25(5)に自己有用感という言葉が出てくる。統一すべきなのか、そうでないのか整理する必要があるため、事務局で検討をお願いする。

[委員] P31の朝食のことについては、家庭のことであり、保護者への啓発が必要であると思うが、市教委はどのように関わるのか。

[委員] 市では学校だよりで「早寝早起き朝ごはん」という啓発活動はされていると思う。質問項目の「している」「どちらかといえばしている」という書き方は違和感があるがどうか。

[事務局] 全国学力・学習状況調査の質問項目のため、このような表記になっている。

[委員] P36のICTを活用して指導する能力がある教員の割合の目標値の80%の根拠は何か。

[事務局] 現在の全国平均が80%のため、その水準を目指すものである。

[委 員] 令和 2 年度にタブレット端末が配付されており、今年度から活用されているため、今年度は割合が上がっているはずである。そのため、80%は達成が見込めるはずである。令和 3 年度のデータはあるのか。

[事務局] 令和 3 年度のデータはないため、令和 2 年度の指標を使用している。

[委 員] P36 の屋内運動場とは何か。また、現状値と比べて目標値が大きく伸びているが、理由は何か。

[事務局] 屋内運動場とは体育館のことである。計画は数年前から取り組んでおり、今後さらに重点的に取り組むため、目標値を 100%としている。

[委 員] P39 の地域学校協働活動について、現状値に比べて目標値が大きく上昇しているが、理由は何か。

[事務局] 現在 3 小学校で放課後子ども教室を実施しているが、今後は、放課後子ども教室だけでなく、見回り活動や地域との活動等、各校 5 事業実施する予定としており、28 校×5 事業で 140 事業としている。

[委 員] P39 の読書をしない児童生徒の割合について、タブレット端末で本を読む人も含まれるのか。

[事務局] 紙媒体に限らず、回答者がどう認識しているかによるものである。

[委 員] P44 図書館の利用しやすさについて、回答項目は何か。また、回答数で良いのか。

[事務局] 図書館の利用者アンケートで、項目は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」という 4 項目である。記載の「満足」は、上位 2 項目の回答の合計である。

[委 員] 現状値と目標値はあまりかわらないと思うがどうか。

[事務局] 前回も同様にアンケートを取ったが、現状値よりも高い数値であった。目標値に関しては、現状の満足度を落とさずに少しでも上昇させようとするものである。

[委 員] 目標値が R7 になっているのはなぜか。

[事務局] 中期計画との整合性を保つためである。

[委員] 人材バンク活用とはどのようなものか。

[事務局] 人材バンク制度として、様々な分野の講師を登録しており、その講師の活用件数である。

[委員] P47 源氏物語ミュージアムの現状値に R1 と R2 の記載があるのはなぜか。

[事務局] R2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で激減したため、参考値として、R1 年度の数値を記載している。

[委員] 全体を通して、P26 の (7) ②いじめのアンケートに関して、前回は年間複数回のアンケートを実施するとなっていたが、今回は毎年が変わっている。これでは年 1 回という印象を与えてしまう可能性があるがどうか。

[事務局] 年 3 回実施しており、継続して実施することが大切だと感じている。

[委員] 毎年というのは単位なので、継続的という言葉でも良いのではないかと思う。

[委員] P35 学習環境の整備(5)②の学級定員が 35 人という認識で良いか。

[事務局] そうである。

[委員] 学級定員の上限を 35 人以下にするという意味合いであり、1 学級定員 35 人以下のような書き方が良いのではないか。

[事務局] 表現を検討する。

[委員] P35(6)②の小学校の学校運営支援員は無くなるという認識であるがどうか。

[事務局] 学校運営支援員については、今後検討していく。

[委員] P3 の「一人一人」が活躍という箇所に関して、「一人ひとり」に修正する必要があるのではないか。また、P34(2)②が「子供」になっているので、「子ども」に統一すべき。また、P34 (3)②の「特別支援コーディネーター」は「特別支援教育コーディネーター」ではないか。また、P41 の「一層」は「いっそう」に統一すべきではないか。

[委員] 目標値が R7 と R9 に分かれているが、中間見直しの時期はどうなるのか。

[事務局] 総合計画の中期計画は 4 年間の計画になっているので、その指標値と同じものを記載しており、中期計画終了の時期に見直しを考えている。その後、R9 年度にも見直しを行う予定である。

[委員] その場合、全ての目標値を R7 にするべきではないかと考える。

[事務局] 本日いただいた様々な意見に対しては整理を行い、修正が必要なところは修正させていただく。

### **3. その他**

[事務局] 今後の予定として、教育委員会と市議会に説明する。また、資料の修正に関しては、委員長に一任していただく、修正後の冊子については、委員と関係機関に送付する予定である。

### **4. 閉会 委員長が閉会を宣言する。**

**閉 会** (午後 5 時 0 0 分)